

達成度調査及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題				
※達成率・・・目標値（おおむね満足と判断するための各教科・観点ごとの得点）を上回った児童の割合。				
教科	第4学年	第5学年	第6学年	
結果の分析	国語	○話す・聞く力の達成率が95%以上と高く、ほとんどの児童が基礎的な内容について目標値を超えている。 ▲ローマ字と国語辞典の使い方が、一部の児童で定着できていない。	○話す・聞く力の達成率が全体的に高く、80%以上の児童が目標値を超えている。 ▲漢字辞典の使い方や漢字の書き取り、文法について定着していない。	○読む力及び言語事項の達成率が大変高く、特に基礎的な内容について身に付いている。 ▲一部の児童について、主語と述語の整った文の書き方に課題がある。
	社会	○観察・資料活用の技能の達成率が最も高く、地図や資料からの読み取りがよく理解できている。 ▲既習内容を生かして問題を解く力に課題がある。また、公民的内容の達成率において差が最も大きい。	○知識・理解については達成度が80%を超えており、全体的によく理解できている。 ▲一部の児童について、基礎的な内容が十分に定着していない。また、上位と下位との差が大変大きい。	○国土や産業に関わる出来事について思考、判断する力の達成率が昨年度よりも20ポイント以上伸びている。 ▲地図や資料の読み取り方について課題がある。また、一部の児童について、基礎的な事項が定着していない。
	算数	○技能の達成率が90%を超えており、計算や作図、時刻を求めることがしっかりと身に付いている。 ▲乗法の性質や単位の変換、円の半径、図形の性質などについての理解に課題がある。	○知識・理解面での達成率が最も高く80%を超えており、昨年度より20ポイント近く伸びている。 ▲一部の児童について、面積の求め方や小数・分数の計算などの基礎的な内容が定着していない。	○各領域とも達成率は80%を超えており、特に作図や面積を求める問題の正答率が高い。 ▲いくつかの事象、条件を関連付けながら、根拠をもって答えを導き出すことを苦手としている。
	理科	○基礎的な内容についての達成度が比較的高い。ゴムの伸ばし方と働く力がよく理解できている。 ▲身近な自然の観察における知識・理解について、二極化の傾向が見られる。	○知識・理解面の達成率が最も高く、特に星の明るさや色、動物の活動と季節との関係がよく理解できている。 ▲応用領域の達成率が最も低く、既習内容を生かして問題を解く力に課題がある。	○観察・実験の技能の達成率が最も高く、また基礎的な内容について、前年度より16ポイント伸びている。 ▲一部の児童について、生物分野における基礎的な内容の理解が定着していない。
調査以外の癖癖との課題	教科	第1学年	第2学年	第3学年
	国語	○話の内容を正しく聞き取る力があり、文章を読む力も高い。言葉についての感覚も優れている。 ▲平仮名および文章の表記に課題がある。	○バランスよく力が付いており、話の内容の聞き取りや文法・敬語・表現、漢字の読み書きも定着している。 ▲説明的文章はよいが、文学的文章の読みが弱い。特に、内容や主題の理解、心情の理解に課題がある。	○話の内容の聞き取り、漢字の読み書き、文法や言葉の特徴、文章の理解等について確実に定着している。 ▲一部の児童について書く力に課題がある。また全体的に、問題文の正確な読み取りに課題がある。
算数	○数の構成、整数の計算、図形の構成など、学習したことがしっかりと身に付いている。 ▲一部の児童について、数量の意味についての理解が不十分である。	○数の大小や分解についての知識・理解、文章をもとに立式する力（三つの数の計算）が身に付いている。 ▲式による表現はできるが、それを活用する力や平面図形の弁別、および作図に課題がある。	○バランスよく力が付いており、特に九九及び筆算の加法、文章をもとに立式（加法）することがよくできている。 ▲筆算による3位数と2位数の減法において、繰り下りの計算が身に付いていない児童が見られる。	
○意欲的に学習活動に取り組むことができ、自分や友達の表現を認めるとともに、作品を大切にしたりよいところを見つけたりすることができる児童が多い。				

<p>調査以外の教科についての成果と課題</p>	<p>○自分の考えを筋道を立てて分かりやすく伝えようとしたり、友達の見解を一生懸命に聞き、理解しようとしたりする場面が増えてきた。</p> <p>○学習のめあてと授業の流れを明確にすることで見通しをもって授業に臨み、発想を豊かに、楽しみながら表現することができる。</p> <p>▲技能面での個人差が大きく、苦手意識があったり自分の発想や構想が技能面で生かされなかったりすると、活動への意欲が下がる児童が見られる。</p> <p>▲学校全体で取り組むドッジビー大会、大縄大会、マラソン大会などの仕掛けを作ったことで、以前よりはだいぶ改善されたが、運動に積極的に取り組む児童とそうでない児童との二極化が解消されたとは言えない状況である。</p>
<p>昨年度の「指導改善プラン」に基づく取組の成果と課題</p>	<p>○昨年度の研究の流れを受け、国語科において教材文の内容と関連した本を目的に応じて読む活動（並行読書）を取り入れた。教材文と自分が選んだ本を生かした活動を繰り返す行うため、スパイラル的に学ぶことができ、読む力が定着してきている。また、読書するジャンルが広がり、目的意識をもって読書する児童が増えた。</p> <p>▲各学年・各教科とも、達成度調査の分析の結果、一部の児童に課題があることがわかった。学習内容を十分に理解できていない児童への個別指導の方法をより一層工夫し、家庭との連携をとりながら学力の底上げを図る必要がある。</p>
<p>改善の方針</p>	<p>①授業の中に、対話や話し合いなどの交流活動を計画的にかつ目的を明らかにして組み込むことで、主体的な学びを促すとともに、以前の校内研究で培った「伝え合う力」を活かし、自分の考えを相手に分かりやすく説明する力を育てる。</p> <p>②習熟度別少人数指導においては各学年を四つのグループに分け、児童それぞれの興味関心や学習状況、個人差に応じたきめ細かな指導を行う。また個別指導の時間を確保し、児童が基礎的な事項をしっかり身に付けることができるようにする。</p> <p>③問題解決的な学習や多様な体験的活動を充実させ、実感を伴う理解を促すとともに、学習して身に付けたことを比較・関連付けて考える力、知識・技能を活用したり自分の経験をもとに推論したりして問題を解決する力の向上を図る。</p>
<p>学校としての改善の取組</p>	<p><b>【国語】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの目的に向かって書く活動、話す・聞く活動、読書活動を関連させた単元を構成し、文章を論理的に読み取ることができるようにするために、段落などに基づいて、文章の構成を意識しながら読み取る活動を取り入れ、習慣付けさせる。</li> <li>・言葉のはたらきや特徴について基礎的な力を身に付けることができるよう、ローマ字や漢字については反復練習を行い習熟を図るとともに、意味の分からない言葉は必ず辞書で調べる習慣をつけ、語彙を増やす。</li> <li>・言語活動を工夫し、並行読書を取り入れた活動を設定するとともに、児童が進んで読書をするような環境づくりをする。様々なジャンルの本を読むことにより興味や知識を広げ、自分の思いを表現するために用いる言葉の数を増やし、友達の話聞く活動などを意図的に計画する。</li> </ul> <p><b>【社会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習事項について繰り返し確認し、確実に身に付けられるようにするとともに、資料を正しく読み取り、複数の資料から分かったことを関係づけて考えたり、意見を交流して多様な考えに触れる機会を増やすことで自分の生活と関連付けて考えたりする力をつける。</li> <li>・児童自らが課題を設定して調べ学習を進め、レポートや新聞などに自分の言葉でまとめる活動を取り入れたり、新聞記事やニュースなどの時事問題と、自分たちの生活との結びつきを考える活動を行う</li> </ul>

<p>学校としての改善の取組</p>	<p>たりすることで、思考力の向上を図る。</p> <p><b>【算数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を活用して児童が自ら問題解決に向けて取り組む時間や小集団で学び合う時間を十分に確保するとともに、習熟に応じて、自分の考えを表現したり説明したりできる場を設定し、互いの考えを交流しながら合理的な方法を見出し、数学的な考え方をさらに伸ばすことができるようにする。</li> <li>児童の学習状況を的確に把握することにより、習熟度別少人数指導を一層充実させるとともに、個別指導の方法・時間を工夫し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、実態に応じて発展的な内容にもチャレンジすることが可能な授業展開にする。</li> <li>実態に応じた授業展開を行うことで、意欲を持続させつつ、着実に力を付けることができるようポイントを押さえた指導を行う。児童各々の定着していない学習内容を把握し、個別指導の時間を確保する。</li> <li>苦手な学習の系統については東京ベーシックドリルをくり返し活用し定着を図ったり、配当授業時間数を増やしたりするなど、弾力的な指導計画を工夫する。</li> </ul> <p><b>【理科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然現象と学習したことを結び付けて考えることができるよう、事象提示を学習の初めに行って探究心を高め、見出した問題を計画的に追究したり、結果を推論したり、考察したりする活動を繰り返し行い、科学的な思考力を伸ばす。</li> <li>視聴覚教材を積極的に利用し、既習事項を活用した授業展開を心がけるとともに、実験や観察を丁寧に行いながら問題解決に取り組む。さらに、基礎的な知識の定着に向けて、既習事項の確認をする小テストを単元の節目で行う。</li> </ul> <p><b>【体育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校で取り組む活動を継続させつつ、授業の中で運動の楽しさを味わうことができるような授業展開を工夫することで、体力の向上を図る。</li> </ul>
<p>教員の改善の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で達成度調査の結果を分析し、それをもとに「指導改善プラン」を作成して2学期以降の授業改善を行う。</li> <li>1時間の授業の中に教科の特性や児童の実態に応じた形態で、互いの意見や考えを交流する場面を意図的・計画的に作る。</li> <li>1時間の学習のねらいを明確にして授業を展開するとともに、(高学年においては昌平ノートを活用した) ノート指導に力を入れ、学習の成果を児童がノートを見て確認することができるようにする。</li> <li>習熟度別少人数指導やT・T等の指導体制を充実させるとともに、講師や支援員、S L Sとの連携を一層密にして、個に応じた指導をきめ細かく行うようにする。</li> </ul>
<p>検証方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元末、学期末ごとにテストを行い一人一人の達成状況を把握するとともに、定着度によっては反復練習等を行い、習熟を図る。</li> <li>授業の最後には学習感想を書く時間を確保し、ノートやワークシートの記述内容の分析と学習状況の確認を細やかに行う。</li> <li>毎月の児童アンケートや保護者による外部評価アンケートなども参考に、児童の学習についての意識を把握する。</li> </ul>